

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	図書等購入事業				担当部	教育委員会事務局				
	会計区分	一般会計		事業類型	一般事業		担当課	図書館			
	事業期間	平成12年度以前		～	平成31年度以降		担当係	図書係			
	総合計画 新基本計画	施策等	4 教育文化		16 生涯学習		3 図書館サービスを充実します				
			重点事業		実施計画事業						
	予算区分	款	10	項	5	目	8	大	2	中	2
	根拠法令・個別計画	図書館法、小牧市立図書館選書委員会設置要綱									
	目的	何・誰を対象に	図書館利用者								
		どの様な状態にするのか	市民の文化、教養、実用、調査研究のニーズに応え、図書館として適切な図書、雑誌、視聴覚資料等を購入し、市民に必要な情報提供をしていく。								
	内容(手段) 目的達成のためにどのような事業を実施したか	<p>◆27年度実施内容 市民の文化、教養、実用、レクリエーション、調査研究等、市民の生涯にわたる学習活動を支援するため、図書や雑誌、新聞、CDやDVDなどの視聴覚資料等、多種多様な資料を購入している。</p> <p>資料選定にあたっては、(潜在的なものや将来予測されるものを含め)市民の期待とニーズの把握に努め、反映させている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選書委員会:3回(7/10,12/10,3/8)開催、 ・購入希望(リクエスト):3,418点 ・予約:103,808点 ・図書購入冊数:20,052冊 ・視聴覚資料購入点数:767点 <p>◆27年度直接経費の内訳 消耗品費 44,927千円 備品購入費 3,003千円 選書委員会委員謝礼 78千円</p> <p>◆28年度直接経費の内訳 消耗品費 44,942千円 備品購入費 3,051千円 選書委員会委員謝礼 96千円</p>									
受益者負担	無										

コスト			単位	H25決算額	H26決算額	H27決算額	H28予算額
	費用	直接経費		千円	49,103	49,165	48,008
正職員		従事者数	人	3.50	3.50	3.50	2.50
		人件費	千円	19,253	19,253	19,253	13,752
その他職員		従事者数	人	0.00	0.00	0.00	1.00
		人件費	千円	0	0	0	1,630
費用合計		千円	68,356	68,418	67,261	63,471	
対前年比		%		100.0	98.3	94.3	
財源	一般財源		千円	68,356	68,418	67,261	63,471
	国・県支出金		千円	0	0	0	0
	その他財源		千円	0	0	0	0

業	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	年間購入点数	点	目標		—	—	—
実績				21,967	21,545	20,819	
所蔵点数(図書館施設すべて)	点	目標		—	—	—	—
		実績		548,934	548,511	554,273	
成果指標名	単位	目標					
		実績					
貸出点数(図書館施設すべて)	千点	目標		—	—	—	—
		実績		1,021	1,021	1,039	
資料回転率(貸出点数÷所蔵点数)	率	目標		2	2	2	2
		実績		1.86	1.86	1.87	

事業の自己評価	平成27年度の実施結果	事業の達成状況	市民生活の幅広い要望に応え、適切な資料を収集することができた。購入点数は減少しているが、所蔵点数・貸出点数共に増加傾向にある。				
		事業実施における課題	蔵書については、本館書庫の収容力が限界にきていることより、今後数年間は積極的に除籍も行う必要がある。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	図書館としての機能が停止し、利用者へ資料提供を行なうことができない。				
	平成28年度の改善内容	28年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページをはじめ現在発行している情報紙等を関係機関等に送付する等、外部に対して積極的な情報発信に努める。 ・古い図書 of 更新を進めて、鮮度の高い書架を維持する。 				
	平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)			
	判定理由	手に入りやすく人気のあるものを揃えるだけでなく、長期的視点から図書館に備えるべき資料収集も継続していく必要があるため。					
	29年度以降の改善案	<ul style="list-style-type: none"> ・除籍についても積極的に行なう。 ・新図書館向けの資料を計画的に購入していく。 					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。貸出点数、資料回転率が減少傾向であるため、利用者にとって本当に必要な資料を購入できているか、必要性の低い資料を購入していないか等について引き続き検証し、事業成果を向上させるよう取り組むとともに、電子書籍の導入についても研究していくこと。